

Rethink
フォーラム



リシンク この街から、Rethinkして未来を変えていく。



★ 街の課題を、考える。話し合う。

そこに住む方々、そこで働く方々、そしてそれを支える自治体の方々と一緒に。

それは、よりよい明日のために。

Rethinkフォーラムは、地域にゆかりのある方や、テーマにピッタリなゲストをお招きして、地域社会の課題解決に向けたディスカッションをする場。

★ ちょっとだけ視点を変えてみることで、違った景色が見えてくるかもしれません。

この先も、この街が魅力的で活気にあふれるように。一緒に、Rethinkしませんか？



Rethink
PROJECT

テーマ Rethink 岩手 ～国内外から愛される岩手へ～

Rethink岩手～国内外から愛される岩手へ～(岩手日報社主催、Rethink PROJECT協賛)が6月2日、盛岡市内で開かれました。岩手県は全国でも人口減少率が高く、地域経済の衰退が懸念されています。そこで県は県産品の輸出拡大やインバウンド(訪日客)誘致の強化を打ち出し、対策を図っています。岩手の個性を「Rethink」して魅力をどのように発信していくか。知事の達増拓也さん、いわて圏代表理事の佐藤隆平さん、大船渡市観光物産協会事務局次長の佐藤敬生さん、日本たばこ産業(JT)岩手支社長の沼井哲哉さんが語り合いました(モデレーターは岩手日報社の佐藤晋取締役編集局長)。



出席者



達増拓也さん(知事)
1964年盛岡市生まれ。88年外務省入り。96年衆院岩手1区に初当選し連続4期。2007年知事初当選し、現在5期目。



佐藤隆平さん(一般社団法人いわて圏代表理事)
1991年一関市生まれ。郡内の地域プロモーション会社勤務を経て、2018年いわて圏設立。25年道の駅だいを運営する大東産地販売協同組合理事。



佐藤敬生さん(一般社団法人大船渡市観光物産協会事務局次長)
1978年大船渡市生まれ。2004年に大船渡市観光物産協会入り。大船渡駅前観光案内所での案内業務、イベントの企画運営などを担当。23年から現職。



沼井哲哉さん(日本たばこ産業株式会社 岩手支社長)
1972年横浜市生まれ。91年日本たばこ産業入社。関東営業本部などを経て、石巻支店、秋田支店、盛岡支店で支店長を務め、22年から現職。

テーマ01 人口減少時代の地域支援

【佐藤晋】県は2025年度当初予算を「世界に開かれたいわて地方創生予算」と名付きました。インバウンド誘致の考えをお聞かせください。

【達増】米ニューヨーク・タイムズ紙の「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が選ばれたことは大きな出来事でした。24年は米経済誌フォーブスの「2025年に行くべき15カ所」でみちのく湖風トレス

テーマ02 インバウンドプロモーション

【佐藤晋】県は2025年度当初予算を「世界に開かれたいわて地方創生予算」と名付きました。インバウンド誘致の考えをお聞かせください。

【達増】米ニューヨーク・タイムズ紙の「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が選ばれたことは大きな出来事でした。24年は米経済誌フォーブスの「2025年に行くべき15カ所」でみちのく湖風トレス

テーマ03 県産品を国内外に発信

【佐藤晋】県産品を国内外にどのように発信するか、方策を伺います。

【達増】新型コロナウイルス感染症の収束後、カナダ、東南アジア、米国、ブラジル、パラグアイ、中国などへの訪問や関係資料を通じて、2010～20年の間に、日本食レストランが世界中で増え続けていると感じています。インバウンドが日本で食事をしている人が入り、SNSなどで共有された結果だと思います。

テーマ04 岩手県の魅力をさらにアップするには

【佐藤晋】岩手の魅力をさらに磨いて、未来にどのように残していけばよいか、Rethinkの視点から皆さんのアイデアをお聞かせください。

【佐藤敬生】人口減少が続く地域にとってインバウンドを含め持続可能な観光誘客促進が必要です。地域資源を活用した独自性・収益性の高いコンテンツの発掘・開発、磨き上げが求訪の動機につながっていくと考えています。



水沢製菓の製造過程を学ぶ県外の学生たち=2024年、奥州市

【佐藤隆平】岩手の食文化は豊かな自然や気候・環境、風土が生み出しています。伝統工芸品にも岩手ならではの技術がたくさん盛り込まれています。

一方、職人の高齢化や気候変動などの要因によって、その根幹が揺らいでいると

【佐藤晋】県産品を国内外にどのように発信するか、方策を伺います。

【達増】新型コロナウイルス感染症の収束後、カナダ、東南アジア、米国、ブラジル、パラグアイ、中国などへの訪問や関係資料を通じて、2010～20年の間に、日本食レストランが世界中で増え続けていると感じています。インバウンドが日本で食事をしている人が入り、SNSなどで共有された結果だと思います。

【佐藤晋】岩手の魅力をさらに磨いて、未来にどのように残していけばよいか、Rethinkの視点から皆さんのアイデアをお聞かせください。

【佐藤敬生】人口減少が続く地域にとってインバウンドを含め持続可能な観光誘客促進が必要です。地域資源を活用した独自性・収益性の高いコンテンツの発掘・開発、磨き上げが求訪の動機につながっていくと考えています。



さんま焼き師認定試験に向けて開かれた実技講習=2024年、大船渡市

Rethinkフォーラムホームページ <https://rethink-pjt.jp/forum/index.html>

※Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組み地域社会への貢献活動の総称です

Rethinkフォーラム 検索